

講義の要点（定期試験対策）

理論編

第1章

- 1 知ることと、理解することとの違いについて述べなさい。
- 2 なぜ繰延資産が動態論思考の典型なのか、述べなさい。
- 3 理論の意義について述べなさい。
- 4 減価償却が「発明」されたモーメントは何か示し、会計変容のモーメントについて説明しなさい。

第2章

- 1 収益の認識基準である「実現」の内容拡大について、述べなさい。
- 2 「企業会計原則」での棚卸資産と有価証券の規定につき、その内容と根拠について述べなさい。
- 3 有価証券の時価評価損益について、その論拠を述べなさい。
- 4 費用（フロー）と資産（ストック）との関係について述べなさい。

第3章

- 1 費用の認識基準である「発生」との内容拡大について、述べなさい。
- 2 退職給付会計での費用の捉え方について述べなさい。
- 3 実態開示と損益計算について述べなさい。
- 4 費用（フロー）と負債（ストック）との関係について述べなさい。

第4章、第5章付論4

- 1 変容の全体の3つの見方が、なぜ変容の度合いの相違につながるか、述べなさい。
- 2 「区別の論理」による併存の見方が、なぜ楕円形のイメージで描かれるのか述べなさい。
- 3 「収入・支出－収益・費用－資産・負債」の相互一体関係について述べなさい。
- 4 2つの利益観の基本的相違点について述べなさい。

第6、7章

- 1 原価主義会計と今日の時価会計との相違を、計算基点の相違の観点から述べなさい。
- 2 変容の2つのステージについて述べなさい。
- 3 変容の「基礎→構造→形態」について述べなさい。
- 4 認識拡大の起点について述べなさい。

制度編

第8、9章

- 1 日本版概念フレームワークの計算構造の特徴について述べなさい。
- 2 有価証券の時価評価損益を売買取引に擬制するのはなぜでしょうか、その考え方について述べなさい。
- 3 2つの全体整合性問題とは、どのような問題ですか。その意味するところを述べなさい。
- 4 「企業会計原則」の最高規範に照らして、概念フレームワークの規範的特徴を述べなさい。
- 5 会計基準の「憲法」作りの意義について述べなさい。

第10,11章

- 1 規範と現実との乖離について、商法（会社法）のケースで説明しなさい。
- 2 会計の2つの役割（利害調整と情報開示）と、両者の関係における今日の変容について述べなさい。
- 3 資本と利益の区別と、その変容について述べなさい。
- 4 確定決算主義とその変容について述べなさい。
- 5 企業会計の変容とトライアングル体制の変容との全体的関連について述べなさい。